

# 国立職業リハビリテーションセンター概要

ハロートレーニング  
(公共職業訓練)

～急がば学べ～



独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構

**国立職業リハビリテーションセンター**

National Vocational Rehabilitation Center for Persons with Disabilities

# 1 国立職業リハビリテーションセンターの概要

## ● 設置・運営

昭和54年に労働省(現厚生労働省)により設置。(埼玉県所沢市)  
(法令に基づき)独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構が運営。

## ● 設置の趣旨

(隣接の)障害者リハビリテーションセンターとの一体的、有機的連携の下に職業評価、職業指導及び職業訓練を一貫した体系の下に実施し(=職業リハビリテーション)、障害者の職業的自立を促進する。

- 独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構 第4期中期目標(2018年度～2022年度)  
国立職業リハビリテーションセンターは、「企業ニーズに的確に対応するとともに、障害者の職業拡大を念頭において、より就職に結びつく職業訓練の実施・指導技法等の開発に努めること。」

## 国立職業リハビリテーションセンター

障害者の雇用の促進等に関する法律第19条

### 中央広域障害者職業センター

- ・障害者職業カウンセラーを配置
- ・障害特性に応じた職業評価、職業指導、就職支援を系統的に実施
- ・雇用する事業主への助言援助

一体的  
運 営

雇 用  
定 着

職業能力開発促進法第16条

### 中央障害者職業能力開発校

- ・職業訓練指導員を配置
- ・個別カリキュラムによる職業訓練を実施
- ・障害特性に応じた効果的な技能指導を実施

※職業訓練と職業指導とが一体となったきめ細かく、かつ高度なサービス提供が可能

# 機構が運営する広域センターの特徴①

国立職業リハビリテーションセンター

中央広域障害者職業センター  
中央障害者職業能力開発校

国立吉備高原職業リハビリテーションセンター

吉備高原広域障害者職業センター  
吉備高原障害者職業能力開発校

国立・都道府県営の障害者能開校(11校)、府県立・営の障害者能開校(6校)との違い

## ① 障害者職業カウンセラーと職業訓練指導員が連携して適応支援と職業訓練を実施

職業適性等を把握するための職業評価、就職に必要な技能・知識等を習得するための職業訓練、職業訓練やその後の職業生活に適応するための適応支援、就職活動の支援や必要な情報の提供等を行う職業指導等、

**個々の特性・能力に応じたきめ細かな総合的な職業リハビリテーションサービスを提供**

## ② 年間を通じた入所機会を設定(随時入所、随時終了) <多くの能開校は年1~2回入校>

### <国立職業リハビリテーションセンター>

- ・ 年間で10回の入所日を設定

**※ 障害別の入所時期を設けずに、すべての障害種類で共通に、年間10回の受入れ**

- ・ 見学説明会の毎月開催等により広く情報発信

## 機構が運営する広域センターの特徴②

国立・都道府県営の能開校(11校)、府県立・営の能開校(6校)との違い

### ③ 障害特性、能力、適性等に合わせた個別支援の実施

#### ○ 一人ひとりに合わせた個別のカリキュラムを作成

- ・ 適性検査、訓練科での作業体験、面接等の実施による綿密な**職業評価**を実施し、**一人ひとりの障害特性、能力、適性等を把握(職業リハビリテーション計画の策定)**
- ・ すべての訓練生を対象として、入所当初に**導入期の訓練**を設け、作業体験等により**障害特性等の把握・自己理解の促進と対応法の調整等を実施**した上で、各訓練科で技能・技術を習得

#### ○ 就職先の仕事内容に合わせた**企業連携職業訓練**を実施

- ・ 異なる環境下では業務の円滑・的確な遂行が困難となる者、身体動作の制限が多く特別な機器・設備が必要となる者を対象
- ・ 採用の可能性のある企業の協力の下、採用された場合に必要となる能力を付与するための特注型の訓練メニューを作成し、施設内訓練と企業内訓練を実施

### ④ 先導的な職業訓練等の実施とその成果の普及

- ・ 先導的な職業訓練実施の成果のもとに、職業訓練内容、指導技法等を他の障害者職業能力開発校等に提供することにより、**障害者職業訓練全体のレベルアップに貢献**

# 職業訓練の概要(1)

訓練系・訓練科・訓練コース(4系 10科 17コース 定員180人)

## メカトロ系 【20】

### 機械製図科(5)

- ・機械CADコース

### テクニカルオペレーション科(10)

- ・FAシステムコース
- ・組立・検査・物品管理コース

### 電子機器科(5)

- ・電子技術・CADコース

## 建築系 【5】

### 建築設計科(5)

- ・建築CADコース



## ビジネス情報系 【110】



### OAシステム科(25)

- ・ソフトウェア開発コース
- ・システム活用コース
- ・視覚障害者情報アクセスコース

視覚

### DTP・Web技術科(15)

- ・DTPコース
- ・Webコース

### 経理事務科(10) ・会計ビジネスコース

### OA事務科(60) ・OAビジネスコース

身体 精神 発達 高次脳 難病

## 職域開発系 【45】



### 職域開発科(25)

- ・物流・組立ワークコース
- ・オフィスワークコース

精神 発達 高次脳

### 職業実務科(20)

- ・販売・物流ワークコース
- ・オフィスワークコース
- ・ホテル・アメニティワークコース

知的

# 職域開発科とその他の科(一般科)の差異について

※「専門的な技能習得訓練」と「適応支援」のウエイトが異なります。

## 一般科

専門的な技能習得  
に重点

補完手段活用等の支援

## 職域開発科

専門的な技能習得

職場環境・訓練環境への  
配慮の整理

補完手段活用等の支援

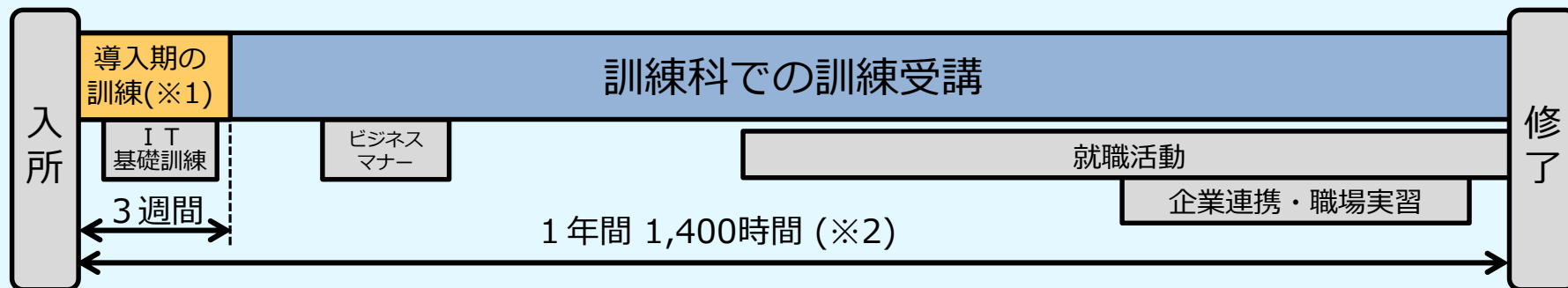
社会生活技能習得支援

### ※ 適応支援

生活リズム、自己対処能力(補完手段活用)、社会生活技能の習得に関する支援や  
訓練環境等への配慮の整理に関する支援

# 職業訓練の概要(2)

## ○ 1年間の流れ



※1 導入期の訓練では、「安定受講」や「困っていること、作業のやりにくさ」について整理し、訓練場面や就労場面で活用できる対応法を習得します。

※2 重度視覚障害者を対象とした視覚障害者情報アクセスコースは、情報アクセス機器の操作方法習得のための導入訓練と合わせて、訓練期間は1年3ヶ月間となります。

- ・土曜・日曜日、国民の祝日は訓練はありません。
- ・夏季、年末・年始、年度末・年度初めに1週間程度の訓練休があります。

## ○ 1週間の訓練時間

曜日	月	火	水	木	金
時間	7	7	6	6	6

## ○ 1日の訓練時間

時限	時間
1・2	8:50~10:30
休憩	(10分)
3・4	10:40~12:20
休憩	(60分)
5・6	13:20~15:00
休憩	(10分)
7	15:10~16:00

# 訓練生活（服装・費用・昼食）

## ① 服装

制服はありません。社会人として**職場に相応しい服装**で受講をお願いします。



## ② 費用

入学金・受講料は無料です。  
作業服、受験料、受験参考書等は自己負担になります。

## ③ 昼食

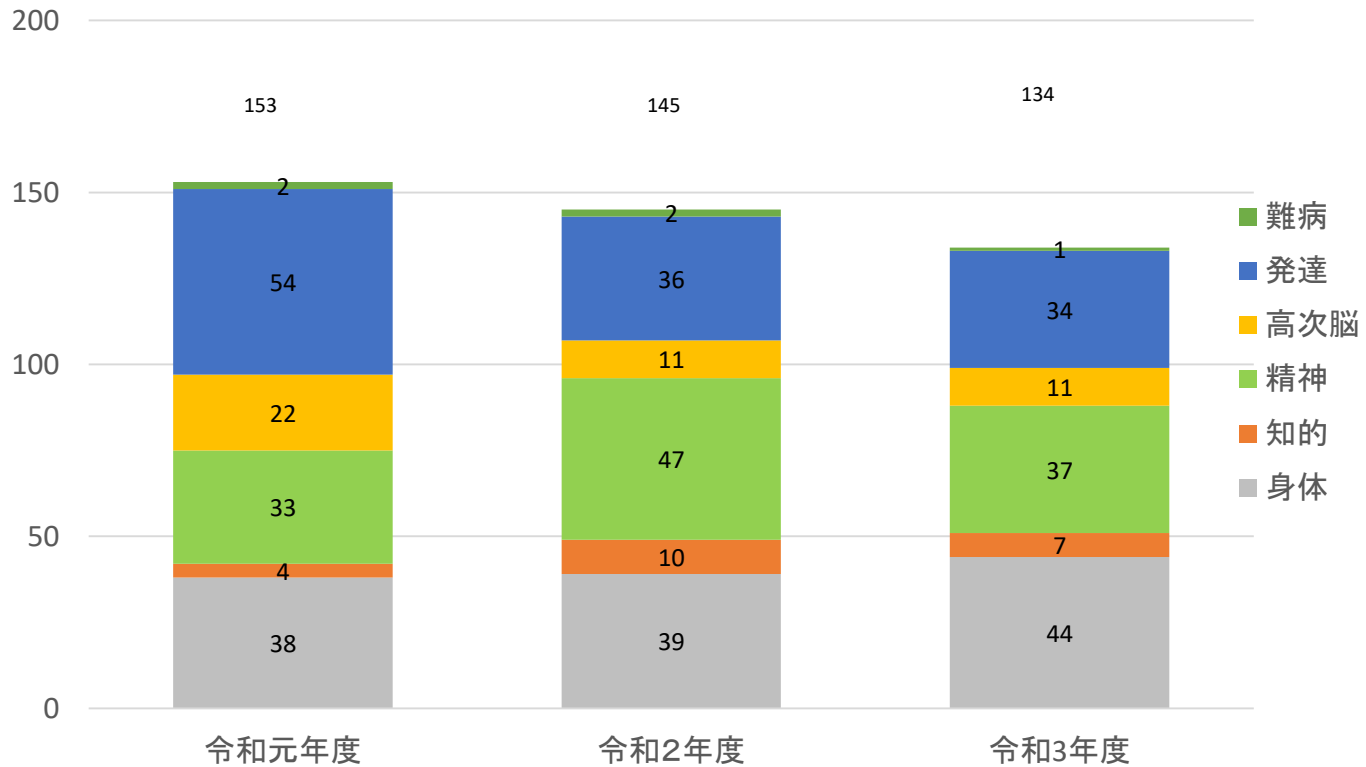
センターには食堂はありません。  
障りハ病院食堂・コンビニの利用、  
仕出し弁当の注文、または、ご自分で用意してください。

障りハに入所されている方は、障りハでとることができます。





# 障害種別入所者数推移



※定員:180人

# 訓練科別の主な就職職種

訓練科	主な訓練内容	主な就職職種
機械製図科	機械加工、2次元CAD、3次元CAD	機械加工、機械設計補助
電子機器科	電子機器組立、電子CAD、電子制御	電子機器組立・検査
テクニカルオペレーション科	機械加工、電気制御 機械仕上げ、組立、配線、測定、部品管理、倉庫業務	電子・電気・機械組立、部品管理
建築設計科	建築設計、設備機器、2次元CAD、3次元CAD	CADオペレーター
DTP・Web技術科	DTPシステムを活用したチラシ、ポスター作製	印刷、出版、DTP関連業務
OAシステム科	情報セキュリティ、プログラムの設計・開発 情報セキュリティ、ネットワーク管理、Webページ作成 視覚障害者用アクセス機器・ソフトを活用したOA機器での事務処理	システム開発、プログラマ、システム管理、ネットワーク管理、一般事務、OA事務
経理事務科	簿記、税務、財務、販売、OA機器での事務処理	経理事務、総務事務、営業事務
OA事務科	事務、OA機器での事務処理	一般事務、総務・営業事務
職域開発科	物流作業、製品の組立、OA機器でのデータ入力、事務補助	物流、製造、製造補助 一般事務、事務補助、データ入力
職業実務科	物流作業、OA機器でのデータ入力、事務補助、清掃、食器洗淨	物流、商品管理、一般事務、事務補助、データ入力、ホテル、清掃業務、厨房関連業務

# サービス利用の流れ①(利用開始までの流れ)

身体障害者・難病・高次脳機能障害者

知的障害者・精神障害者・発達障害者

宿舎利用

通所

通所のみ

市町村

障害支援区分認定

サービス利用計画作成

ハローワーク

職業相談・求職登録

国立障害者リハビリ  
テーションセンター

<自立支援局>  
宿舎利用  
障害者総合支援法に基づく  
サービス利用の開始

職リハ入所申込書類の送付

連携

地域障害者職業センター  
事前相談(予備評価)

協力

国立職業リハビリテーションセンター

連携

# サービス利用の流れ②(入所申請から修了までの流れ)

入所希望者 (求職登録 ⇒ 入所申請)

I 職業評価

入所決定会議 (入所の可否、訓練コースの決定 等)

職業リハビリテーション計画の策定

受講指示・推薦 (ハローワーク)

入所

入所

II 職業訓練の実施

ケース会議 (中期)

III 職業指導の実施

修了決定会議 (フォローアップ方針等)

修了

就職、職場適応

フォローアップ

連携

地域障害者職業センター  
ハローワーク  
就労支援機関等

## 国立障害者リハビリテーションセンターの施設入所支援（宿舎）の利用について

身体障害、難病、高次脳機能障害のある方であって遠隔地にお住まいの方や通所が困難な方等で、施設入所支援（宿舎）の利用を希望される場合は、国立障害者リハビリテーションセンターの利用申請手続きを行ったうえで当センターへ入所申請を行ってください。

<宿舎利用に関するお問い合わせ先>

国立障害者リハビリテーションセンター

総合相談課 電話 04-2995-3100（代表）

FAX 04-2992-4525（直通）

## 職業評価に係る宿泊施設(ホテル等)の利用について

- ①身体障害、高次脳機能障害、難病のある方のうち新規学校卒業予定の方について
  - 職業評価の受検に当たって、障害者リハビリテーションセンター宿舎の利用ができません。居住地から通所が困難な方については、職リハが契約した宿泊施設（ホテル等）の利用ができます。
- ②精神障害、発達障害のある方（新規学校卒業予定の方含む）
  - 障害者リハビリテーションセンター宿舎の利用ができません。職業評価の受検に当たって、居住地から通所が困難な方については、職リハが契約した宿泊施設（ホテル等）の利用ができます。なお訓練受講中は、通所可能なところにアパートなど居住場所を自分で用意していただきます。

入所したことで、自分の障害をよく理解することができ、特性を踏まえて、どう対応すればいいかも学ぶことができました。また、訓練以外でも就職活動では多くのサポートをして頂きました。

一人ひとりのペースに合わせてカリキュラムを作成してもらい、また、何かあればすぐに相談できる環境が安心して職業訓練に取り組むことができました。

社会人のマナーを一から学べたこと、技能を身につけられたこと、そして職場実習を通して良い就職先にめぐり会えたことです。発達障害に対しての支援が整備されているように感じました。

## おわりに ～ 訓練修了者の感想から

セルフマネージメント訓練で、自分の課題を考えることにより、いざという時の対処法を知ることができたのがとてもよかった。自分の問題を見つめ、考える時間を与えてくれたことに感謝します。

物流・組み立てコースで、自分の知らなかった社会のルールや仕事の適性を知り、目指すべき就職先の候補を見つけることができました。

入社2年目になりました。人事の方から契約更新の話があり、今は仕事に全力で頑張っています。職リハセンターからは是非当社に入社してほしいなと思います。仕事とは何なのか、就職活動の苦勞を感じてほしいなと思っております。

# 受傷等で休職中の方のための 復職に向けた職業訓練(6ヶ月)のご案内

国立職業リハビリテーションセンターでは、[受傷等により休職している](#)身体障害、高次脳機能障害等を有する方のための復職のための職業訓練を実施しています。

対象者：疾病、事故等で休職し職場復帰を目指している

- ・身体障害者手帳を取得している方
- ・高次脳機能障害のある方
- ・難病のある方等

入所日：随時（いつでも応募可能です）

訓練期間：原則6ヶ月間

- ★復職時期等に応じて6か月以内で柔軟に設定することも可能ですので、お気軽にご相談ください。

受講料：無料（教材費等は実費を負担していただきます）

利用要件：①休職中であって、在籍している事業所への復職を希望していること。

- ②復職を進めるにあたって、事業所が当センターの訓練受講について同意をしていること。

## 実施例

職場復帰後の職務を想定した職業訓練を実施します。

### 高次脳機能障害者

脳梗塞により高次脳機能障害を受障。工場の生産ライン工から事務職へ職種転換を図るために、新たな技能・知識の習得、記憶・遂行機能障害を補完する代償手段の獲得を目指して入校

#### 訓練内容

- スケジュールの自己管理
- 補完方法の習得（付箋・TO・DOリストの活用）
- OA機器の基本操作方法の習得
- 復帰後の事務作業（データ入力等）を想定した技能の習得



### 視覚障害者

疾病により視覚障害を受障。事務職の業務をスムーズに進められるようにするために、視覚障害者用アクセス機器およびアクセスソフトの活用方法の習得を目指して入校

#### 訓練内容

- 拡大読書器の活用
- 画面読み上げソフト・画面拡大ソフトの活用
- 復帰後の業務（従業員の勤怠入力等）を想定した技能の習得

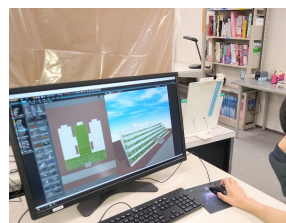


### 肢体不自由者

交通事故で身体障害（両下肢機能）を受障。現場監督からCADオペレータへの職種転換を図るために、新たな技能、知識の習得を目指して入校

#### 訓練内容

- 建築設計・リフォームに関する2次元および3次元CAD等に関する知識・技能の習得
- OA機器の基本操作方法の習得





## 訓練の特長

・対象者の障害状況やスキル、事業主のオーダー等を踏まえて所属する訓練科を決定し、訓練カリキュラムをオーダーメイドで設定します。そのため、復職後の具体的な職務内容を想定した訓練を行うことができます。

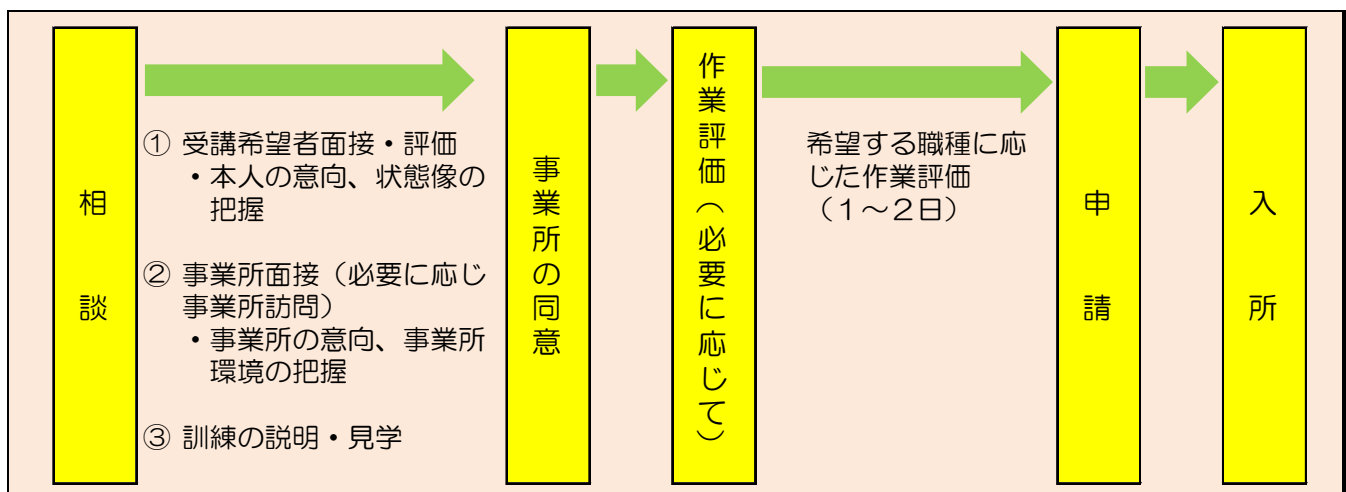
・事業主に対し、対象者の障害状況や事業所の環境等を踏まえた復職後の職務内容の設定や、作業環境の変更及び障害特性に応じた支援機器の導入等の環境調整に係る支援を実施します。

### 【訓練科・訓練コース】

訓練科	訓練コース
機械製図科	機械CADコース
電子機器科	電子技術・CADコース
テクニカルオペレーション科	FAシステムコース
	組立・検査・物品管理コース
建築設計科	建築CADコース
DTP・Web技術科	DTPコース
	Webコース
OAシステム科	ソフトウェア開発コース
	システム活用コース
	視覚障害者情報アクセスコース
経理事務科	会計ビジネスコース
OA事務科	OAビジネスコース
職域開発科	物流・組立ワークコース
	オフィスワークコース

★訓練コースの詳細につきましては、当センターホームページ (<http://www.nvrcd.ac.jp/>) または2021年度版の「ごあんない」をご覧ください。

## 訓練受講までの流れ



### 【お問い合わせ先】

国立職業リハビリテーションセンター 職業指導部 職業評価課

住所：埼玉県所沢市並木4-2

電話 04-2995-1201 メール：Shokureha-hyokaka@jeed.go.jp

# 国立職業リハビリテーションセンターにおける 高次脳機能障害者に対する職業訓練について

ハロートレーニング  
(公共職業訓練)

～急がば学べ～



独立行政法人高齢・障害・求職者雇用支援機構

**国立職業リハビリテーションセンター**

National Vocational Rehabilitation Center for Persons with Disabilities

# 1 高次脳機能障害者に対する支援の考え方

## (1) 支援の基本的な考え方

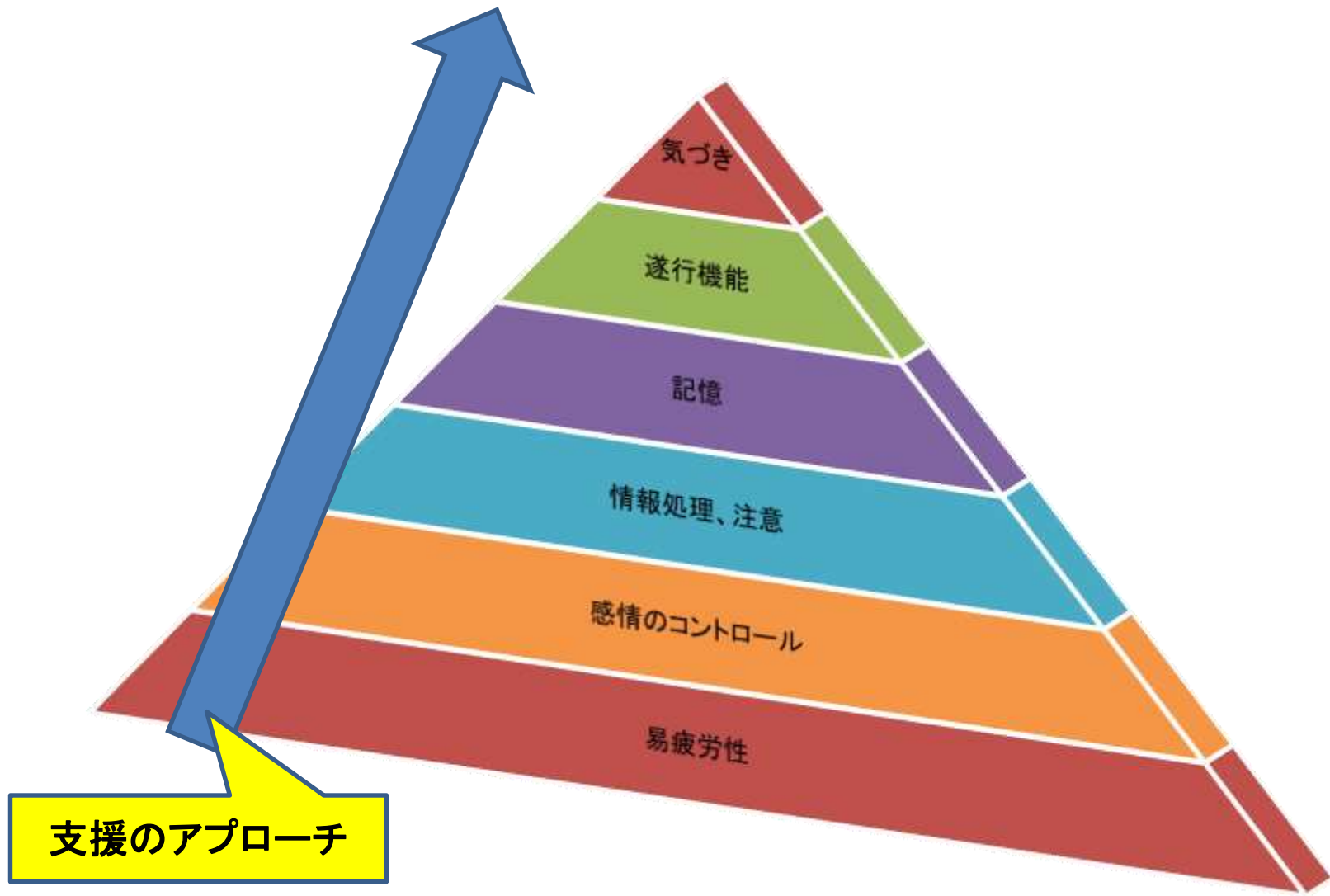
就業場面におけるコミュニケーション方法等対人スキルの技能付与等、職場適応力の向上を重視した訓練を実施。

- ① 個々の障害特性や状況に応じた指導及び支援
- ② 職場における対人技能の習得
- ③ 各種作業体験によるマッチングする職域の開発
- ④ 記憶・注意といった職業に必要な認知機能の維持・向上
- ⑤ 補完手段や補完方法の習得
- ⑥ 相談によるニーズ把握と希望指向の支援
- ⑦ 説明と同意（インフォームドコンセント）

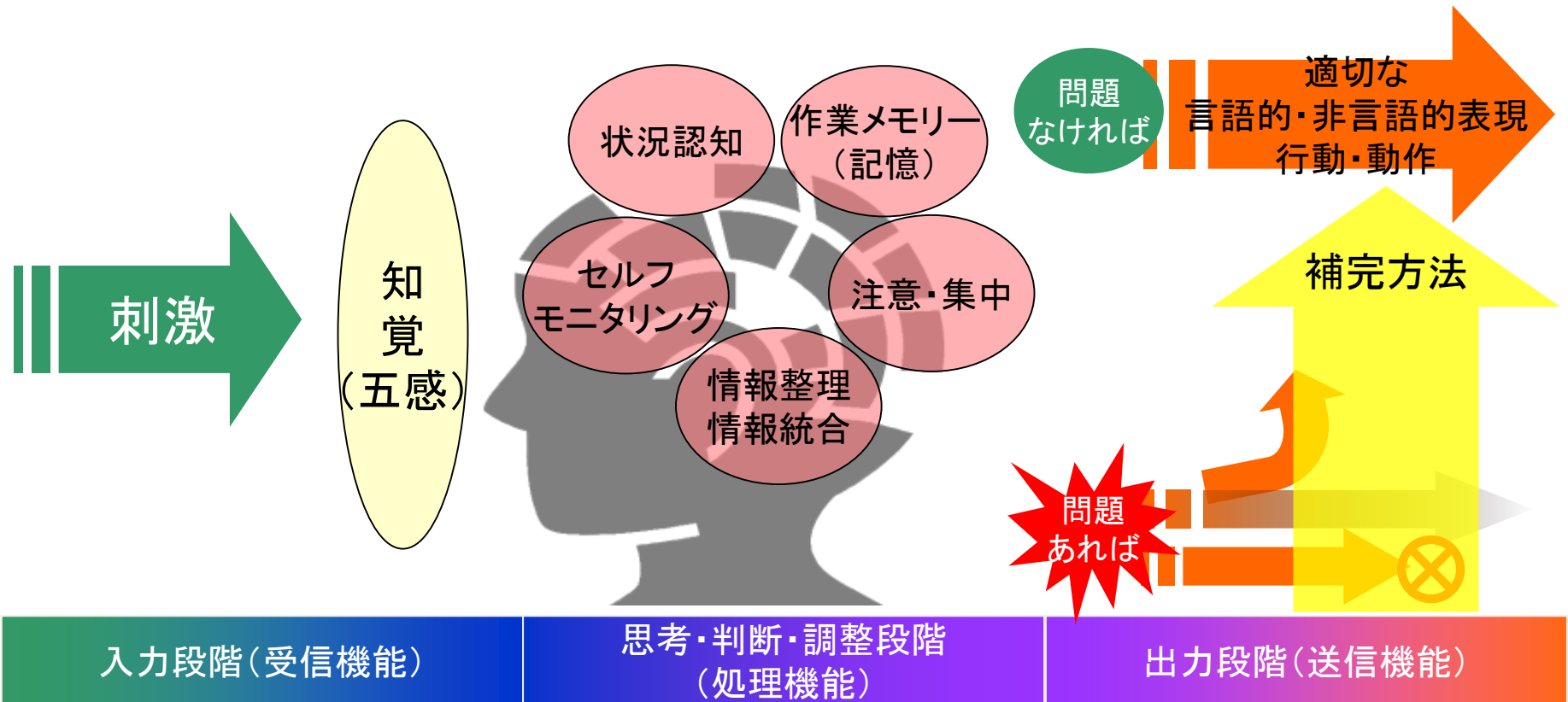
## (2) 障害の特性を踏まえた支援の視点

- ① 障害を受けたことへの感情(喪失感、悲壮感など)
- ② コミュニケーション面での課題
- ③ 障害特性の多様性
- ④ 障害特性の自己理解の促進
  - 補完方法の獲得における成功体験の積み重ね
- ⑤ 職業上の課題等に影響する特性の理解
  - 身体機能面
  - 家族等との人間関係の不調
  - 不安、不眠、抑うつなどの精神的不調
  - 受障による意欲低下
  - 家族、職場関係者の障害に対する理解
- ⑥ 高次脳機能障害の特性を踏まえた支援アプローチ(※)

# ※高次脳機能障害の特性を踏まえた支援アプローチ



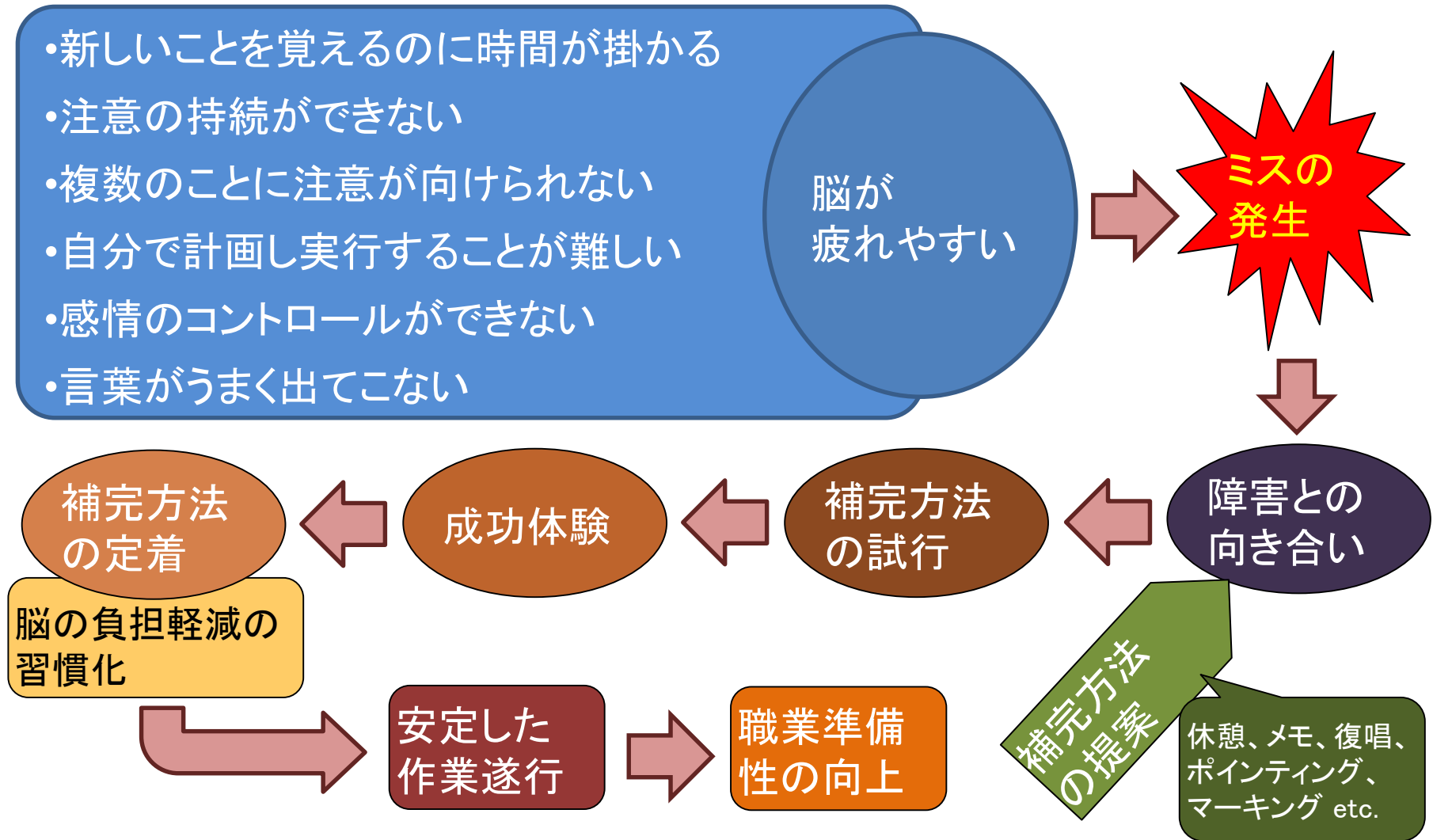
### (3) 認知行動課程を踏まえた支援の視点



※ 認知行動過程の障害とは、知覚してから頭の中で判断して、行動に移す情報処理の過程が障害されることを指します。(広義での認知障害と捉えます)

※ 補完方法とは、障害を補うための対象者の行動(補完行動)、障害を補うために道具等を活用する手段(補完手段)の総称を指します。

## (4) 補完方法の検討



## 数値入力

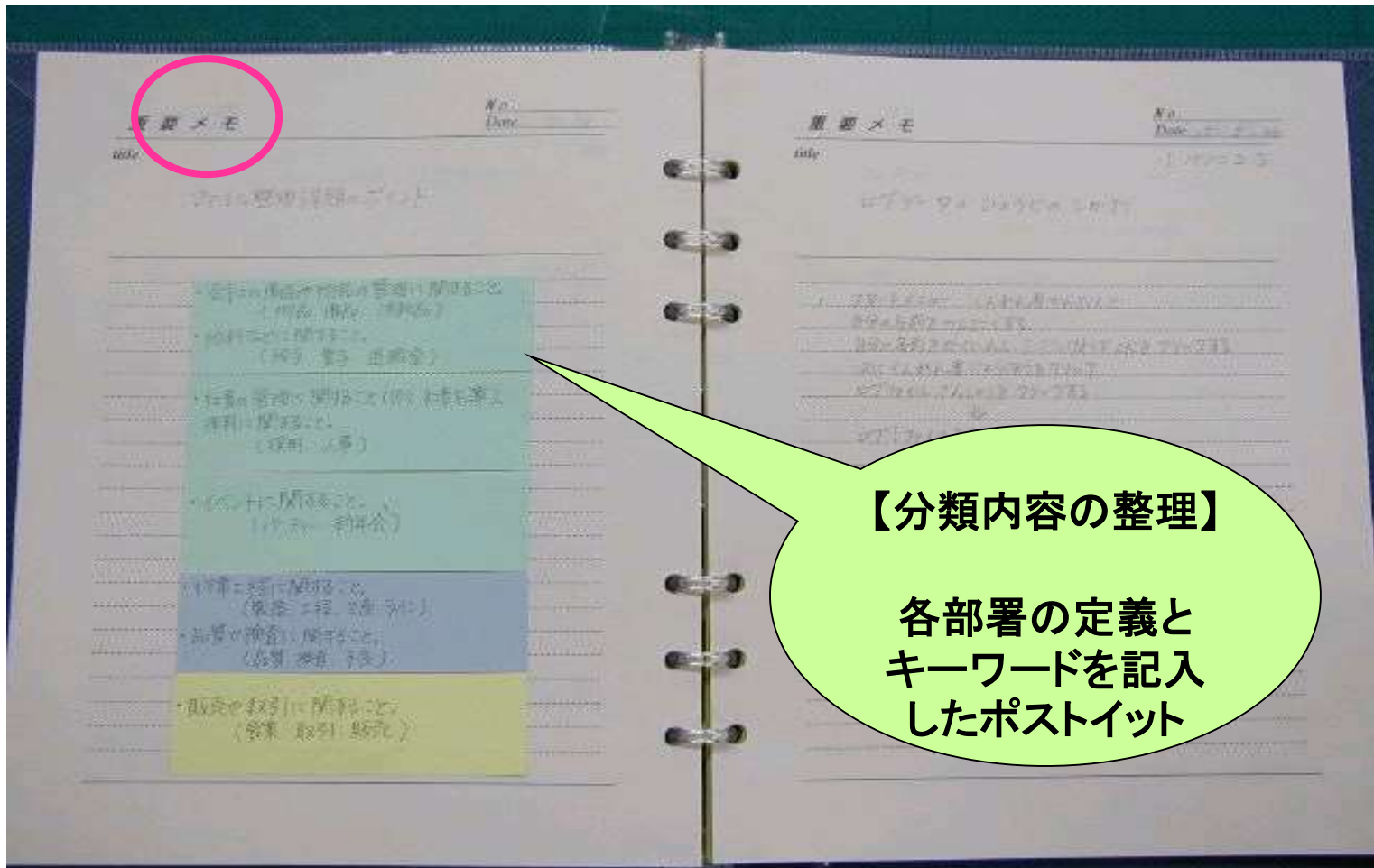
### ポインティング+読み上げ入力(3桁区切り読み)





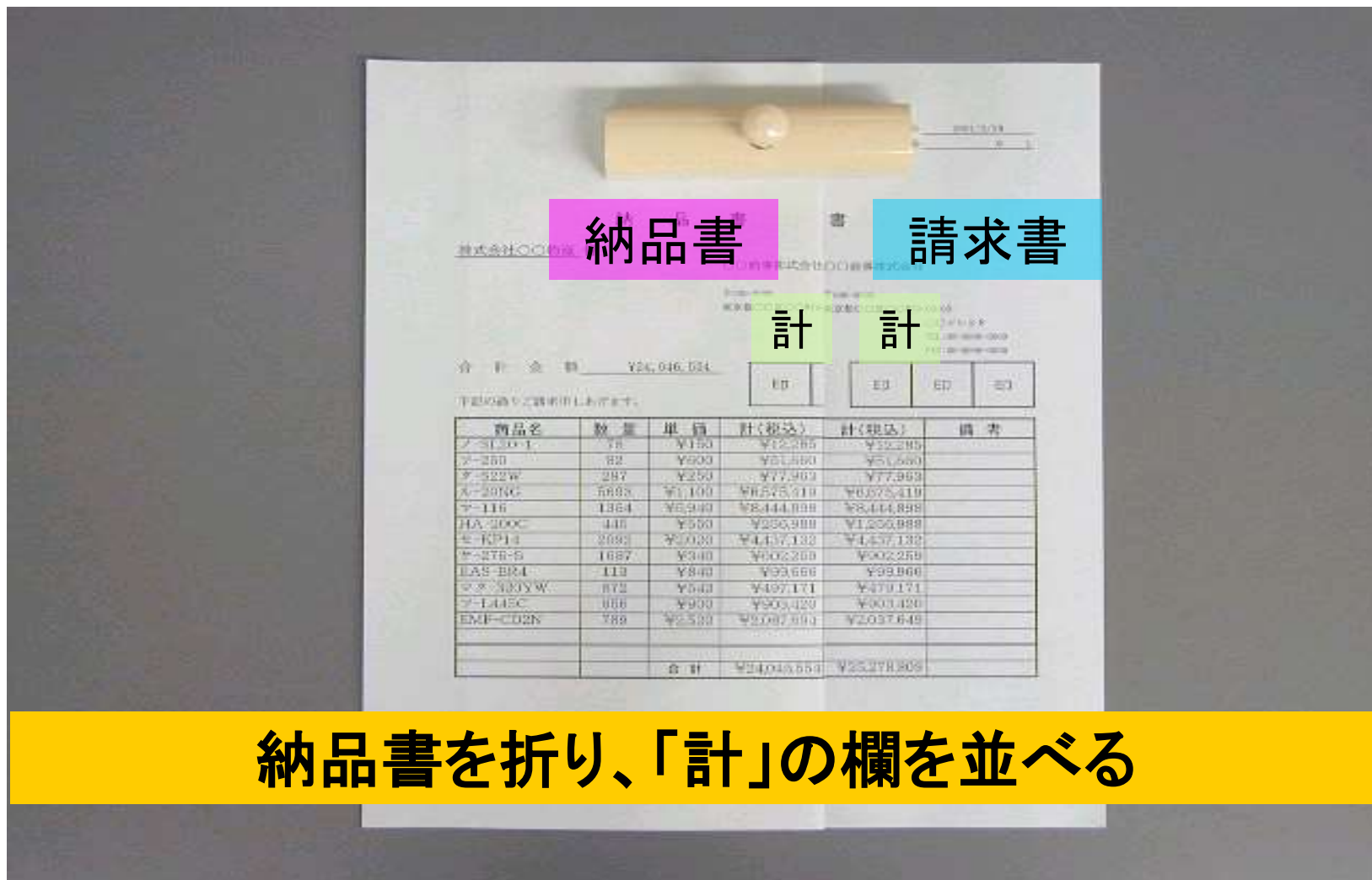
## ファイル整理

# メモリーノート(重要メモ) + ポストイット



## 数値チェック

# 用紙を重ねて行なう



# 物品請求書作成

## 品名カードを置く位置 + 定規を使う

### 物品請求書

品名カード

タックメモ  
TACK MEMO

タックメモ(付箋タイプ)

レギュラーサイズ

品名 5-1-1

タックメモ

種別 付箋タイプ  
付箋(レギュラーサイズ)

数量 22

品名	価格	種別	サイズ	材質	数量	単位	品名	価格	種別	サイズ	材質	数量
タックメモ	¥200	レギュラーサイズ	114×78	再生紙	10000	個	タックメモ	¥250	ミニサイズ	78×54	再生紙	10000

定規

タックメモ

品名

タックメモ

種別

数量

品名	価格	種別	サイズ	材質	数量	単位	品名	価格	種別	サイズ	材質	数量
タックメモ	¥300	レギュラーサイズ	114×78	再生紙	10000	個	タックメモ	¥250	ミニサイズ	78×54	再生紙	10000

## 個々の状況に応じた補完方法の活用例



スケジュール  
は机の上に

携帯電話に  
メモ書き

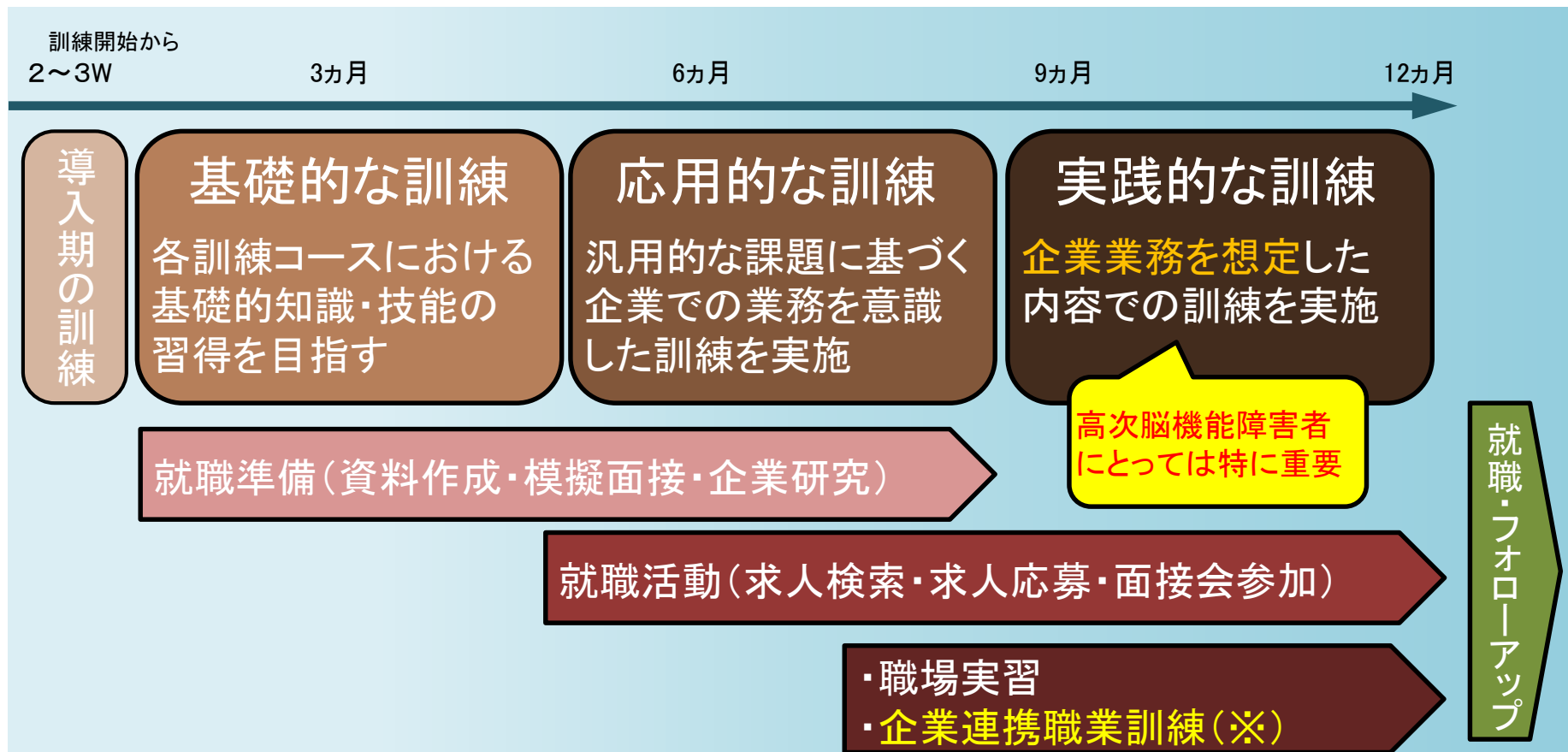


作業手順書を確認

定時の仕事はアラーム



## 2 高次脳機能障害者に対する職業訓練



### ※企業連携職業訓練

精神・発達・高次脳機能障害者等の特別支援障害者を対象に、雇入れを検討している企業との密接な協力により、特注型の訓練メニューによるセンターにおける訓練と企業内での訓練を組み合わせた職業訓練や、採用・職場定着のための支援を行う。

## ※ 企業連携職業訓練(概要)

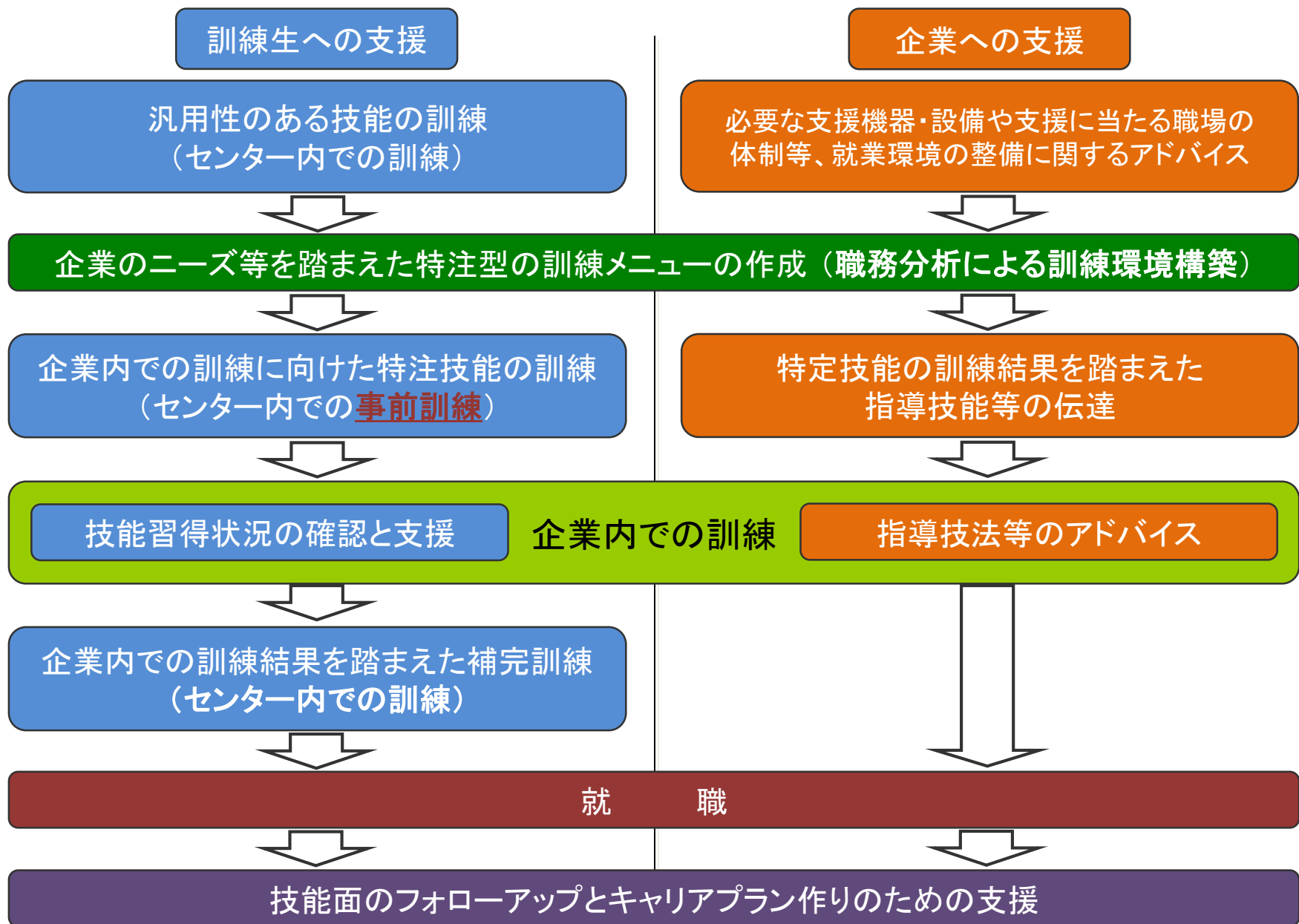
- ・集合訓練が困難で、障害の様態に応じた個別的対応が必要
- ・障害の様態に応じた職業訓練に係る技法・経験が十分蓄積されておらず、新たな技能習得ノウハウの開発・試行等の対応が必要
- ・適切に対応できる医療機関等専門家や支援者との継続的な連携が必要

特別支援障害者

を対象に、

雇入れを検討している企業との密接な協力により、特注型の訓練メニューによるセンターにおける訓練と企業内での訓練を組み合わせた職業訓練や、採用・職場定着のための支援を行います。

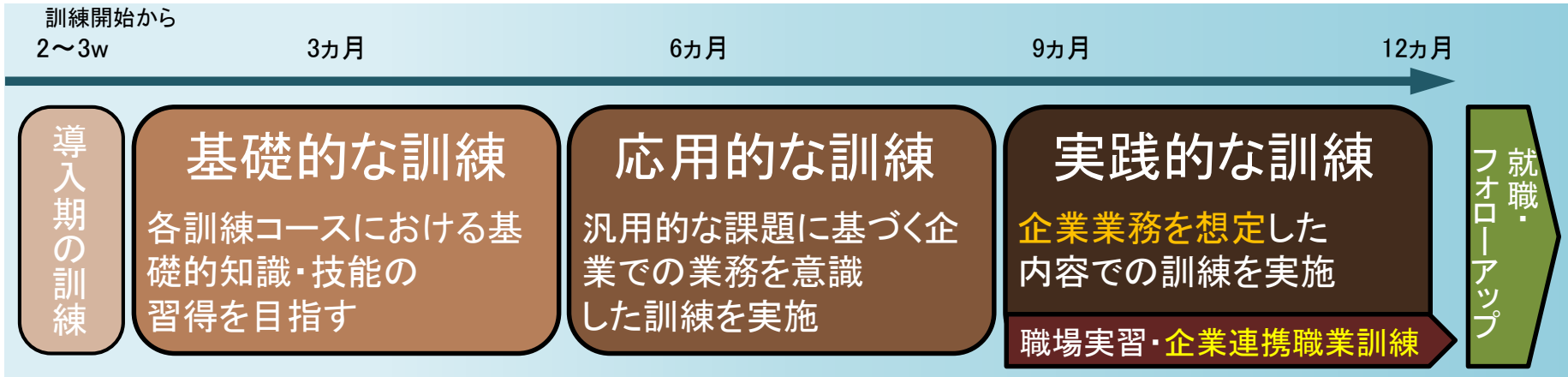
## ※ 企業連携職業訓練（流れ）



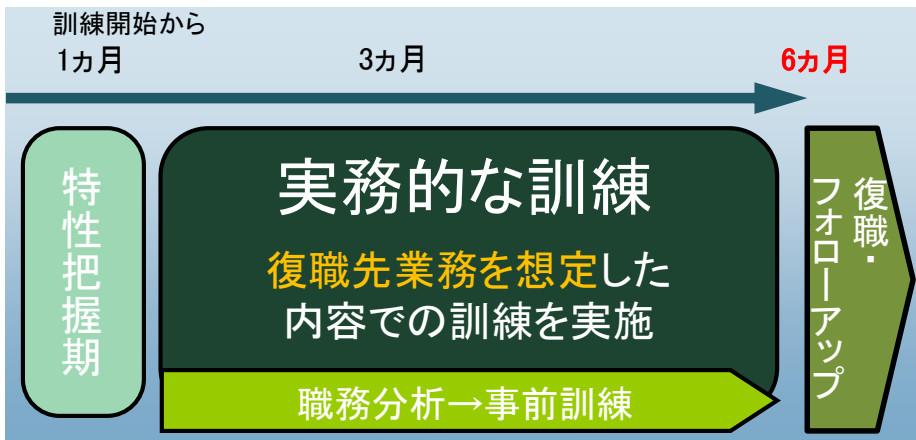
# 3. 高次脳機能障害者の職場復帰訓練

## (1) 求職者訓練と職場復帰訓練

求職者訓練：普通課程の普通職業訓練



休職者訓練：職場復帰を目的とした短期過程の普通職業訓練



休職者訓練の実務的訓練の組み立て方は、求職者訓練の実践訓練期における「就職を目的とした職場実習」とほぼ同等ではあるが、訓練期間が短期であるゆえにより迅速さと綿密さが必要。



## (2) 職場復帰訓練の流れ(イメージ)

